

舊記

浦政化方より

延寛初終八年

三

菊  
189  
2

富山大学  
菊池文書

569



延寶元年分國年目録

一 諸郡年目録并之郡年目録并之郡年目録并之郡年目録

一 諸郡年目録并之郡年目録并之郡年目録并之郡年目録

一 諸郡年目録并之郡年目録并之郡年目録并之郡年目録

一 諸郡年目録并之郡年目録并之郡年目録并之郡年目録

諸郡

一 諸郡年目録并之郡年目録并之郡年目録并之郡年目録

諸郡

一 諸郡年目録并之郡年目録并之郡年目録并之郡年目録











一 山形十村所ノ戸数ノ浦方 既振ノ里ノ人ノ数ノ書  
山名ノ場ノ紙也

一 延寶三ノ首尾總ノ浦方 亦成情也 出ノ所 与  
ノ名ノ紙也

一 百姓中ノ戸数ノ實又土年書也 度下ノ名 田地名也 一ノ山  
ノ名ノ紙也

一 越中ニ款村所ノ實終年果ノ實  
新田所ノ實終年果ノ實

一 宿方浦方ノ實終年取越河  
此方人ノ中 勘馬ノ實 終年取 堅田ノ方 之 書上

一 所將馬書終年取越河馬ノ實 新田にノ年ノ實  
事終年取越河馬ノ實 終年取越河馬ノ實  
終年取越河馬ノ實

一 百姓中ノ戸数ノ實 亦成情也 出ノ所 与  
ノ名ノ紙也

一 延寶三ノ首尾總ノ浦方 亦成情也 出ノ所 与  
ノ名ノ紙也

一 安川七村所ノ實終年取越河馬ノ實

一 同村所ノ實終年取越河馬ノ實



一 新山村 清年貢米之事或通

一 柳原村 百姓今清定年貢米之事或通

一 砥波村 所賣米年貢米之事或通

一 足鏡 百姓所賣米年貢米之事或通

一 足鏡 百姓所賣米年貢米之事或通

一 千換 所賣米年貢米之事或通

一 出給 所賣米年貢米之事或通

一 百姓 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通

一 所賣 所賣米年貢米之事或通



一 名者相熟而性家不始誠名也

一 百姓之氣定於今清年實年格運一也三也名誠而

一 清和之清和也中清和也中清和也中清和也

一 西澤新村所賣格按年無錢師仕錢物及名也

一 村在右邊清清未改通

一 百姓分分、勿論也人他不知年不中知清和

一 清和國之刻 清和國之村在村又八中格領金清和

一 清和言也右成也教也成也格多也中格遠也中格

一 清和言也右成也教也成也格多也中格遠也中格

一 清和言也右成也教也成也格多也中格遠也中格

一 清和言也右成也教也成也格多也中格遠也中格

一 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例

一 公方樣沙不例 公方樣沙不例



*[Faint, illegible handwritten text]*

賞

今石動冲錄跋

高園冲猿貌

卜村

依佛体系自孩少松野所

宗

右卿秉勅之別以我重為人所誥諸事無滯之能傳於











郡縣三帝度大鴻基屬度

寬

一山百谷丈

德子組宿子

右面年而事勅而供中子教其心其終而負子中在子心其  
死之象之每其治其心其終而負子中在子心其  
事歸其心其終而負子中在子心其

子其心其終而負子中在子心其

市其用場

郡縣三帝度大鴻基屬度

右面年而事勅而供中子教其心其終而負子中在子心其  
死之象之每其治其心其終而負子中在子心其  
事歸其心其終而負子中在子心其

二月五日

大鴻基屬度  
郡縣三帝

大鴻基屬度  
子



一高

一  
符  
子

右高坡指石如斯

延寶元上改

寬文十二年六月朔日

卷之五

川西  
十法  
村中

五虎村

田中村

福光村

之  
清  
村

上  
一  
世  
村

金名

大  
江  
村。

の  
ろ  
は

端



市子行所

二帝之所  
後地

延宝

丑  
九月廿日

陳洪

步往訪人

十村  
山  
代官中

佛知中村所賣給米と外所より越利を銀取り者あり  
 今斗年か畧うと衣給米と高を銀に取らず給ふ急なる極なり  
 村にふゑる給米と所者といへども又未給と所も今吟味能相異  
 斗二月より少く別帳を記給米と一斗給米代、田高のなと  
 斗の所賣に其方扣除給米と畧う是又帳を記給米と一斗

延寶元十月廿日

圖田古七

石渠寶笈

有之於人所

中村原之

之利又古史

園田左大郎

中村助左衛門



孫氏部族持合村中

乃人

一金老步武切

一同

一同

一同

一同

一同

拾武切

大天去月廿日

之別所孫子人

之別所孫子人

延寶元年五月

大屋衣右馬屋  
佃 半七郎

又 八  
長 八  
孫九所  
孫三郎  
孫六

戸七村 又 八  
三九村 長 八  
浅地村 孫九所  
金屋本庄村 孫三郎  
大所村 孫六  
内宿村 孫六

為 佛意多々中入三國陽改地村之福給中代出を  
十呂女以降改地村之其子合之改地奉り上ア一  
後改地地代其子給人者しりて百姓才か免束ア一之  
作中呂女之起之其子佛意中一統ア一之相弱と被  
信也急

承應三年七月廿日

角六村周備  
半四玄米



前田三右衛門 本多武房殿  
 前田尉馬殿 長九郎殿  
 奥村河内殿 横山左衛門殿  
 小幡玄好殿

右に述べる年俸額は成吉思汗の城を今更なる中  
 相觸るる年俸並用場にて 作は法額と条銀とに  
 不致ぬ一丁の面百姓中俸より其方より前法額より  
 俸諸祠早に可致銭以上

寛  
 六月六日

右に述べる年俸額は成吉思汗の城を今更なる中  
 京保正二年八月九日書上

園田右七  
 河内左衛門  
 水止左八郎  
 中村助左衛門  
 中村法左衛門  
 園田左八郎

大坂  
 三村又左

源氏物語  
 十村中

右に述べる年俸額は成吉思汗の城を今更なる中  
 俸より其方より前法額より

延宝元年六月

法扶持中名書  
 十村又左書

法改化

法改化

一 村 俸  
 俸原物就 俸原先達より其弟ハハノ子前より  
 三之上より其の自然各交配して所ハ右中より並に 俸原と物  
 無きハ俸原味より於方より二丁を指銭の所より俸定 俸平  
 おありし一丁を指銭の所より二丁を指銭の所より俸定 俸平  
 一村 俸印より其の所より俸用と云ふる者ありし以上



橫山外記  
昭田九名傳  
不方合

一尚、佛代掾、佛印所持、佛印所持、  
お所持、不、佛印、  
正室二  
六月十四日  
又八

六月十四日

[illegible]

又八

乃其之師友 大德之師友

分陽用方にて其後、結實定實、清血、持病、是々、年々切年中  
 二切、高し、三切、高し、後、勝、自、次、承、法、書、三、者、し、年、く、する、方、こ、  
 二、其、後、其、年、ゆ、に、終、了、な、ふ、一、明、く、其、切、年、了、な、ふ、時、分、清、血  
 二、者、し、其、後、ゆ、に、後、り、中、乃、あ、り、乃、向、居、け、る、乃、死、し、と、  
 二、一、一、に、は、る、な、い、と、

正室武

六月八日

師  
集  
用  
場

新其三印佐  
大為甚  
各別

正寶武年生源子人教并叙不味唱憶書并休是

一子合

年五拾貳

金溪四所家稿

沐  
賜

一  
卷  
五  
夕

不器

右法如女口所

7

一  
部  
合  
子  
夕

卷之七

にせふ

廿一

三合

斗

כו

小  
大

一  
部  
合

月方

石枰



一子合  
一武合子夕  
一武合  
一武合子夕  
一武合子夕

源博光  
 右之六廿日  
 口母  
 口娘  
 口せれ  
 口たに  
 口名物  
 口ち  
 口台

右長女に所  
に年能多なる  
右長男始  
と長男  
と  
と

今日夕六  
みね

小  
名  
海

太極圖說  
福

世に  
右

石堂



一武合

米六斗

口姫

左川

一合

米六斗  
七斗七升

三人分一斗飯米  
味噌  
塩

一五合

米七拾貳

藤波新長村家持

三九吊

一武合

米四拾三

右三九分廿口一好

こや

一武合

米拾五

口せうれ

十々情

一合

ハタ七升

三人分一斗飯米

味噌

四斗七升

塩

藤波新長村家持

七七所

一五合

米三拾五

右七五分廿口一好

上め

一武合

米五拾五

一武合

米四斗

口姫

かい

一合

三人分一斗飯米

ハタ七升

味噌

四斗七升

塩

一五合

米四拾

藤波新長村家持

他右所

一武合

米三拾八

右比右所廿口一好

あこ

一武合

米拾六

口姫

か

一武合

米拾五

口せうれ

ふ

一合

三人分一斗飯米

米六斗

味噌

六斗

塩



惣人数ノ数拾九人

一日銘年亥八升七合五勺

一日味噌ノ合四夕七勺

一日煮物ノ合四夕七勺

妻子

右里子共人数拾九人味相違ニテ之を以テ

延寶貳年

戸セ村

又ハ

浄ノ村

九ヶ所

出改化

市子新橋

御用ニ交リ申上ル書状申寄送り越ニ申上

方ニ由リ各所宛ニ申上ル迄ニ寄送り御停止

申上ル由リ申上ル旨申上ル旨申上ル旨申上ル旨

寄送り申上ル旨申上ル旨申上ル旨申上ル旨

申上ル旨申上ル旨申上ル旨申上ル旨申上ル旨

以上

延寶二年九月八日

御奉行様

御勘定御役







右之海一尺鹿刺飛仕二拾越人

延宝計

寛七月廿四日

園田在七  
河北流古海  
中村流古所  
園田古冬帝  
之利又古

彌傳新十村中

之

△一師常用場標

△一師新山寺標

△一師改供山寺標

一七新佛奉山標

一川下古寺標

一川際佛寺標

一道路佛寺標

○一師有智師山標

一師新山寺標

一師換山寺標

○一師山見

○一師網指

○一師紺指

一師山寺標

△當那古名竹送

口利

口利

○村送

○村送

○口利

○口利



○一 佛持持人状に申

○村送り

一 山廻り状に申

○二十 村状に申

○村送り

右佛持持人状に申、以下に刻始、所見仕へる者か定む

十村、村送り仕へる者か定む

正室

六月十一日

け免かき國信十村かきんぐの太西  
信者よりいりやう

け免は後同八月朔日、松本、新所相續所より増田は助成か  
佛持

免

一 信持佛持よりかきんぐ信持る免拂下り、在に振免心の

免免をいり不及中、信持代銀毎月海切、取立同月より

免免、佛持よりいり、とて中

一 振免者所より、別免免下り、十村方、波吟味人数極

書付、二、三、条、而、信持、記、振免れ、お、免、中

一 船、何れ、下、候、かく、一、信持、不、免、又、一、川、一、信持、一、中、

条、今、何、味、信持、并、候、又、一、馬、一、馬、一、押、一、馬、一、其、其、

一 他國他免、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、

信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、

一 他免、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、信持、

一 押、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、

押、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、一、免、

免



能令是亦一厚中

一、在所する暇に於て若くは其の所を以て味仕商分  
ハ其の所を以て合流して其の所を以て味仕商人  
と云ふ所を以て味仕商人と云ふ所を以て味仕商人  
一間屋中暇に於て其の所を以て味仕商人と云ふ  
商賣仕口を以て味仕商人と云ふ

一振賣之者ハ浅中買入也

一時にお別後召しにて交死に佛を以て書付て也

大に有<sup>レ</sup>涕<sup>レ</sup>を<sup>レ</sup>能<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>悔<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>皆<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>根<sup>レ</sup>常<sup>レ</sup>後<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>者<sup>レ</sup>也<sup>レ</sup>

正寔元年八月廿六日  
佛樂園

飛雲之節度上為甚

免

一、在、宿、の、塩、振、賣、仕、込、者、ハ、十、村、方、ニ、書、キ、塩、代、銀、ニ、差、引、  
其、月、迄、切、ハ、同、屋、方、ニ、お、渡、シ、中、ハ、塩、賣、人、數、名、付、キ、書、キ、組、  
切、同、屋、方、ニ、お、振、賣、れ、と、取、高、賣、仕、込、ル、ハ、法、中、付、ニ、書、キ、

一 脇指賣見付にて詠し、海に老に極みたるを余に達し、何  
方と者いふを吟味仕極賣人、左行と行賣、右後をり、要  
細う及ぶ所いふ若一才ある——隈是にて二為哉、交する依

中付一考

一浦方亦持去説と云々仰せし事書せし向後暇極る所持て下積



一、好と四倍の外能く他國に賣せ倍賞する船やと云ふて積  
 荷の方多く他國に賣し倍賞する船は倍賞する積  
 荷の中付く

下書法中付

一、新川筋と名大取分急交二馬中付し

右と海に接する村中常と波の味とを急流の味と

正德元年八月廿六日 御筆用楷

大島玄之助

当依佛國中佛之教不可過之十秋万歳同之安事此云  
 佛状令披已也此云今之交加賀守様若君様佛誕生  
 之也此云自為佛祈禱者今佛代系之是法神示料也下之  
 今神也則お神前若君様佛是貨法延命必定安否  
 之也此云祈禱祈禱後之麻縵斗蛇進上之也此連日  
 祈禱念二十之也此祈禱時之也此時

正室武

十月廿四

師

福井古書屋

戰中礮位記

又書後

泉村

市石堂



壬戌村  
次郎四郎左  
田中村  
三右衛門

今度 若君様所誕生に於ては佛新橋哉中十村所授  
持之而佛代系と稱越に自家と銘小理を留方止狀  
と係系ある所佛新橋仕何も書狀中不始大法に  
得之とて小村一り中同如度<sup>子</sup>安知即之而分年大<sup>宗</sup>不能詳

正室式

十月廿日

高松

永吉與根

山

福井とある村

急と詳

佛子前所支配に於ては佛新橋哉中十村所授  
至一君に之ノ前明と云はれけとも又ハ分者なるも在り中  
因杯所ふりいれぬ何あけ所不及中り始に念中り  
高年いゝ五ヶ所佛新橋哉用ハる一ハ以上

正室式

十二月十二日

佛新橋哉

高松とある村 大崎甚とある

佛分國中往還道去年昔年此より道より  
所至と成り向後ハ新切甚と合と十村と坪ハ高道也  
換之りて為止とて中り被 所至り計所至り改代  
右所とて中り被りて詳



正室卦

寔

十一月廿六日

奥村因惜

前田 尊馬

横山古陌

本多忠房

律四字在點後

其所得之振子波就少<sup>ル</sup>如<sup>ク</sup>余等と違<sup>フ</sup>何<sup>レ</sup>民組と百姓以抱  
て年々一々として代替を其身ハ村廻とも不仕仕<sup>ル</sup>振<sup>ル</sup>返<sup>ル</sup>方  
て所用大法<sup>ニ</sup>は<sup>ル</sup>振<sup>ル</sup>取<sup>ル</sup>分<sup>ニ</sup>去<sup>ル</sup>年<sup>ノ</sup>か<sup>レ</sup>交<sup>ル</sup>一<sup>ニ</sup>は<sup>ル</sup>是<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>年<sup>ノ</sup>四年  
左<sup>ニ</sup>高<sup>ニ</sup>去<sup>ル</sup>ハ<sup>ル</sup>振<sup>ル</sup>切<sup>ル</sup>村<sup>ノ</sup>廻ともい<sup>ハ</sup>し百姓<sup>等</sup>も前<sup>ノ</sup>足<sup>ノ</sup>屋<sup>ノ</sup>諸<sup>等</sup>  
を以<sup>テ</sup>抱<sup>テ</sup>耕<sup>ス</sup>他<sup>ノ</sup>用<sup>ニ</sup>を<sup>モ</sup>も<sup>テ</sup>振<sup>ル</sup>返<sup>ル</sup>方<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>仕<sup>テ</sup>合<sup>ス</sup>仕<sup>テ</sup>情<sup>ニ</sup>と<sup>モ</sup>限<sup>ル</sup>

何日か何日近村也  
し、匠、安、何書付  
て持哉、何し而用  
に墮入、何代と村也  
に者、し、外不審、  
取、し、匠、し、持  
哉、し、し、之、  
る、て、し、味、し

一、年内退分。御座農具貸与者も又ハ引合二度也。此銀米  
者ノ種ト御抱ニ係存スル所浩ク迷惑仕百姓者ノ事  
あり。然レ中ニ之ヲ持シ百姓飢中死スル者食ホムコト取分何  
哉。一方錢乏ナル系村廻ニ去カ不勝見。而レ申飢人又ハ乞  
食ニ如キ神ト者多シ。其書付調ニ控錢。以テ抱ニシ飢人未  
方シ。而レ其十村上り口十村急度曲云ニ。中付ハ次ニ頃ハ天氣  
能サ荒起ニ。お海ら救ヒ似上

正室三

二月八日

圖四七

川水海古



水之森八郎

中村孫之助

中村助右衛門

園田右太衛門

大坂  
三利又右史

藤波啓法持持十村中

十村諸所法紙之旨

一向後書分家所改比年より古書より振書に仕る事

一向後家所名手より古書より改書に仕る事

右之海調一市の法に其方共書付連に佛寄合一所より改書に仕る事

留一信に仕る事

延宝三

年  
二月晦日

ッ人

一向後書分其能く十村并廻り口佛持持人宛所にて申

一其能く十村并佛持持人宛書に改化奉行宛所にて持銭一市に

向端換書に仕る事

右之海一向後書分持銭一市に斯く一相調者之

延宝三年二月廿日

改化奉行

佛部

出持持人十村中







河分國

止取上

為止

交能

切

皮向

方

中

方

河分國中往還道去幸者年為化主上條より道なり  
河上より下りて河分國中より河分國中より河分國中より  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より

寅 三月末六

奥村因幡 苗野子  
換山左馬 中多安房

河分國中

津田守安房 園崎守安房

河分國中往還道去幸者年為化主上條より道なり

寅 三月末六

河分國中

大崎守安房

河分國中

河分國中往還道去幸者年為化主上條より道なり  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より

寅 三月末六

河分國中

大崎守安房

河分國中

川小流左馬

中村流左馬

園田左太市

水之左太市

中村助左馬

金利又左馬

河分國中

河分國中往還道去幸者年為化主上條より道なり  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より  
河分國中より河分國中より河分國中より河分國中より



[illegible]

正室三

三月廿四日

佛  
集  
同  
其

改作

大之通  
得之  
定興  
書令  
判飛  
之  
指哉  
以  
日

園田友七

沛眠血系五乃沛安行並言者向慶師國仗此

係竹刻

勿論、之師史、之結、之貨、之岩、之貨、之館、之外、之作、之國、之使、

師定之爲人教者人一日是升定一有所分故

長沙、衡陽、湘潭、岳陽、常德、益陽、郴州、永州、南寧、貴陽、昆明、成都、重慶、西安、蘭州、西寧、拉薩、台北、高雄、基隆、新竹、嘉義、屏東、花蓮、台東、澎湖、金門、馬祖。

金法小抄 卷八 石動 高田 泉

三子能幼八七尾為本為系兼居豪占撫衣平怕

初以五八銀切半五八淨銅戶收為一五五錢也

洋

卯三月十五日

橫山古漁  
奧村因儒

延室三

舊對馬本多安所

清田字在安成

吳昌碩

薛之

大  
恆

利子古史

遠田左左衛門

中村男左衛門

中村海陽

水上土八席

河上先生

礪波歌

十  
村  
中

正德中

一田地家仙方に中野原に法り其之草積中いふ多苗月合  
中い撮 祐高ハ各是と私持高田苗と原かよむ中是と後と  
弓かい存佛教免と書成二と下ハ武佛何と成二と下ハ伏止







佛持持人打并せれ名代判證に  
 持合ナ者に有リ姓名代ホ也  
 何方にも佛出紙とて佛洞に判飛  
 う花振にりり如方判證に仕  
 方にも有る如月番にり白如新に  
 中分上

正室三

七月廿三日

大西村

以需於道

32

戶者村

子右監判

又右與世  
同

工在馬家代

祗  
同

和泉村

市右協利

右口到

物十村中

右  
口  
口

右新書并也。此足示、或亦正名判不改、以此情而記之。  
上中今

分代判<sub>下</sub>五<sub>上</sub>邊<sub>下</sub>五<sub>上</sub>振<sub>下</sub>情<sub>上</sub>切<sub>下</sub>年<sub>上</sub>未<sub>下</sub>心<sub>上</sub>仕<sub>下</sub>一<sub>上</sub>中<sub>下</sub>以<sub>上</sub>自<sub>下</sub>然<sub>上</sub>吊<sub>下</sub>判<sub>上</sub>處<sub>下</sub>中<sub>上</sub>死<sub>下</sub>

現代の文学を専らとす。近世文学史上の中心名流を用

不傳古物也。是御出内一千二百石。代其及十村中。寫中合。

抑々浅所事念と入改亭の一統中付いゝ報と悦成者高也

自代に於極師用勅さる者之故ハ  
 諸ノと云編能て傳ふ



あるて高貴の者に仕る者ハ波吟味する所也其外親縁者  
後折々同ふ中付の者ハ所用と云ふもの中付のものは  
私共申留の遠近仕るもの付のものと一なるもの見仕  
不渡承引いたる近き振に一寸上り其列帳上中以上

延宝三年六月

十村係掛人付

改化  
所より仕人

其方共所代官分の内詰承、其方所より、統一通先積並  
と云ふ振切の取付と付置年と其件迄右宛一市以上  
拂方之時分所より通能為記、其方所より、統一通  
通帳に記出、其方所より、統一通能為記、其方所より、統一通

引、其方所より、統一通能為記、其方所より、統一通  
帳に記出、其方所より、統一通能為記、其方所より、統一通  
箱より、一市以上、右紙より、其方所より、統一通  
其方所より、統一通能為記、其方所より、統一通

延宝三年

七月十二日

所算用書

藤原信長十村山

出代名

是記帳面、其方所より、統一通能為記、其方所より、統一通  
一市以上、改化、其方所より、統一通能為記、其方所より、統一通



正室三

六月四日

改作

九  
村

子右

泉村

市在

内  
語  
村

孫化

金谷村

長古堂

免

一、師範中、四、留當、他、毛、正、年、務、能、也、外、仕、与、を、間、能、有、こ、し、大、  
大、分、増、加、食、米、數、度、得、賃、を、成、り、其、方、式、取、り、付、銀、子、を、  
入、能、為、波、合、意、百、姓、中、新、有、好、情、を、也、有、こ、し、中、

一 改札之作、高年之故ハ終ニ其大方ノ所貸年者當ル所應  
負并所貸之成重ト得去々いニ事ニ付ハ亦新有モ好尚立  
色ト云々ト管矢不中得中地方諸官所法貸年未迄止不仕  
ハ所賜<sup>借</sup>少多モ近弁不仕振。其領子村所扶持人村に近  
百姓中、能る波合急所賣飽合既總リ付振入急とて中申  
一人知分本月か立毛也。本次亦波吟味少宛も無伸到上納  
為仕下り所納<sup>ナ</sup>之れも八月初か且、為波所納納<sup>ナ</sup>中申  
一 當年ハ国者ノ秋也下クハ皆所<sup>レ</sup>限も例年カ前急にお  
極<sup>テ</sup>中納<sup>ル</sup>未出市ノ無伸到上納<sup>ナ</sup>納急<sup>ニ</sup>中申  
一 九月至丈所代系拂波別向當年ハ急百姓目々より波  
手立多拂ふられ編り二仕事――  
一 稿新穀ホコウチウ家銭一五集迄や用ハ波安少惜燒矣不



信紙に綴りて  
付事

一秋仕へ別稿一日も多ふ——と羊居仕儀據ふ迄不意と振と百廿  
中へ急度と事

[illegible]

一畝方に及ハ白瑞草種蒔テ此地に麦菜種追ヒ之に所  
蒔種ハ種カ子を入ル味で仕ル麦と及ハ例年ハ種多所  
指ハ汝中羨ヒル所ハ亦大分ハ蒔種ハ急度で中付申

一田地主者なりハ田三筆持て居り桑向屋ハ少シ有る許リ有  
利并ニ金貨を有しルハ持て居る村ニハ田地主ハ少シ有る持  
て居るハ田地主村ニ有ルハ持て居るハ田地主村ニ有ルハ持て居る

越る畠新に地物甘きに喰ふしにハ秋に玉り納所  
 之利得中後り其考十村得持人仕方一義を文  
 一跡に数度り得る名やの賞お不仕諸共做進おせふ中  
 振にほる端り仕中

右ノ條ニ趣キ村并ヨリ口ニ師技持人村ニ在リ成肝實能合氏成  
 高橋小百姓申クモハ後去秋ハ度ニ降ナクハ成茂能  
 有ル諸能可クモハ内ニ移シ精ニ成シ振ニ成合能一ノ  
 大飛中後達小月仕者お君ノハ十村ハ技持人不屈ニ成成ノ条  
 ナキニモハ見能ハ成奥ハ波名判ニ降足ニ成成ノ条  
 方ニ相違ハ

正宜三

卯

六月十六日

國田友七  
河島清玄



水止る八る所  
之利又左史

中村助左衛門

園田左太衛門

大坂  
中村清左衛門

藤原  
十村中  
以持持命

方何少我當春之約束より能止候して當るに方左衛門  
段とハ控も右淡次方名一付付と上

所張方當年田地下之他仕山百姓若くは當春ハ諸他人無し  
例年ハ田地耕し外下之に下之に能其十村所持持人  
之れも此ハ淡當年ハ當年に能此より不他人より

淡味例年下之諸仕外年貢米高直と考ふに中村は當年貢  
上戸局安と申者若くは不他分田地ハ所并する安と付に十村者  
し一區淡能振に在り素人、但下下之他仕山百姓二方し當右之海、  
相談一付し、おん持中を以て當年より他を懸念し、地  
之右利去連分仕方、此と

延宝三  
七月廿日

改作

藤原新村水  
以持持人  
十村中

當時代所不之拘下判所不之拘去年六月は弱く、  
之中下之安、其以後是と一所持仕者も方く、  
改以味方し、上之横山外記度分下之り方々し、書付當年月



申之指銭の自多ハ不及中銀申之内、も若而指銭者所相得  
一ツハ

一十村所被指入所被指高目銀金銀ノ此所合算未未書書之勘  
定所所市村所印之此所所用之此所外何、不寄所市村  
指入之此所所市村之此所所市村之此所所市村之此所所市村之  
此所所市村之此所所市村之此所所市村之此所所市村之此所所市村之

延宝三

九月十四日

延宝三

大治甚之海

十村所被指入也申

所尋之付中ハ

一尚所代所市之指入指入之此所所市村之此所所市村之此所所市村之

中其通今ハ此所所市村之此所所市村之此所所市村之此所所市村之

延宝三年九月廿日

所被指入之村

又右海

延宝三 大治甚之海

當年之歳夫此食米被指入之此所所市村之此所所市村之此所所市村之  
在之自給新穀未被指入之此所所市村之此所所市村之此所所市村之  
中其通今ハ此所所市村之此所所市村之此所所市村之此所所市村之

延宝三

十月二日

園田左七  
川水所被指入  
水止甚八所  
園田左太所  
中村所被指入



大坂 毛利又右衛門  
中村孫兵衛

新設十村  
保持人

若所支配の内十村有外宿方陣方取振揚助成并借り更  
中者八向福其外者若茂男女人子元近し不後威并并年  
馬所持仕者若情高記は場一馬若こ者り不及中均元を急  
浅ふ一振をい以上

延宝三

十二月二日

保集用場下

新勘三命左 大馬の元を所左

所分國中高納所云領給人知共不殊改告海に由改化事以事  
所算用場事以奥書各言と過に字石所改化事以  
若何し情入之油所改や評且又十村其外所持持と下  
性尤情をあらぬ所改告海佐といふをれり右と過改化事以  
一と一と事

所意に急し

延宝三

十二月廿二日

奥村岡場

本多出所  
横山右衛門  
前田對馬殿

所分百姓中人に持言性高に記定又拾一筆としるは如く記し下



田地を在仕者有り也而少法に得た教度中分後、其古振と後  
ハ者留交と取に去昔經と今吟味二取前も居性而も遠も有て  
ハは案文に通一經切書付あ一市に及て中後義に留た所ハ  
諸申もと付古姓成立振、其間引渡ぬ抱耕他ホ為情也  
一市ハ少法に他、成し徒者にて是吟味二中分け紙面と越  
令此形、成し、徒居、獨にお中、其經と十村ハ白、臨、此、以、所  
按、拈人、越、成、たる、層、人、以上

三  
月  
二  
日

園田 古七  
川 小 流 古 七  
水 上 古 八 帝  
中 村 助 古 七  
園 田 古 七 帝  
大 板 古 七 帝  
中 村 古 七 帝

村水石  
十村  
古按

越中三都村野實録終焉

- 一、小石分五拾石近八斗山方八寸重七斤  
一、大拾石分上白石近壹石武斗山方八寸重七斤  
一、百石分上武白石近壹石子斗山方八寸重七斤  
一、武白石分上三白石近貳名山才八寸重七斤  
一、三白石分上四白石近貳石子斗  
一、四白石分上五白石近二石  
一、五白石分上六白石近三石子斗  
一、六白石分上八白石近四石







正室 四月六日 極盛

砥波砥石所磨  
拾浪兼是事

一七石子斗

井波所貯炭

以刻石於振臺  
武庫穴川後分草爲三之武而姓家、三之

一之石  
福野村野賣亭

口抄名  
計別符从振亭  
武井流江分常  
高ニテハ  
百姓家ニテハ

一臥石

抱之新所行夢臺

け 割 符 所 以 召 数 と 半 分 所 と 半 分

一畝石五斗

口石  
此割并振臺  
武紳光門紳分某方ニテ武百姓家ニテ

性生村野黃乞人

日三石斗  
廿年方百石  
右一斗

松生新所行質之

刻斧草高ニ半分振動口留敷ニ半分

福所肝煎臺

口三  
刻對百姓而中分振而中分

福昌所肝黃卷

口六不子中  
け割符乃振寺  
武井完英なるニテ武而世家ニテ

五野所賦

以割於武庫之斗立於河漢高四尺七寸不與面如中并乃振家數

依カ肝所質亭人

口口石中  
刻刻从振亭人  
武井家殘分茶言三子二百姓家三子一

和因新町新賣亭

刻符从振毫  
 武升家分  
 卷之三  
 武升家分  
 卷之三



太  
和  
乙

八上

延寶四年正月廿三日

清  
改  
作

戸田所蔵

中田所賣

田中村 和泉村 三右衛門 次右衛門  
久吉村 又右衛門 三右衛門 次右衛門  
福光村 凌地村 金平村 次右衛門  
本保村 宗右衛門 孫九郎 長古郎  
次右衛門 孫九郎 孫九郎 孫九郎

覺

一、審方其取所賞振撫之由、裏屋並所引振改、意旨、或并完  
 爲、或分所引之留、數、之、二、高、之、一、割、對、付、振、撫、之、作、付、式、  
 割、對、付、振、撫、所、引、之、意、旨、未、細、村、切、情、面、書、之、

一浦方ハ亦指以下其商賣ニ思ヒテ所肝賣拵指之ヨリ以殘分家  
數ニ云々式之ヨリ云々之刻符拵拵ニ云々付付ハ刻符之品垂細村切  
此局ニ事ト一市ハ似ト

正室四年五月廿八日

清溪村形勢  
新庄村利源  
正平村次高  
下平村山右



市政代  
師事

大田村  
戸田村  
田中村  
津村  
狹間村  
上村  
古井村  
植田村  
能本村  
氏村  
中根村  
桑原村  
北條村  
右人、利飛仕

大田村  
戸田村  
田中村  
津村  
狹間村  
上村  
古井村  
植田村  
能本村  
氏村  
中根村  
桑原村  
北條村

無能馬中勘

一 浪田

三人女

四人男

八人男

一 浪田

四人女

四人男

九人男

一 浪田

七人女

五人男

五人男

一 浪田

浪田







正室四年二月朔日

覺

佛領國百姓中其外拉民之事少は月安おと故必先祝之其能と  
十村係中と衣羅有以近一止と御令也と言上仕成方くと云丸

實文十

戊  
八  
月  
廿  
八  
日

右成八筆。 伯士之說甚利。 在蜀時苦涼。 公尚月中。 在蜀時苦涼。 人或不識。 能為。 公台。 是說。 通判。 張西。 十村。 子。 前。 一。 後。 一。 說。 切。 十。 村。 所。 按。 於。 人。 者。 身。 七。 一。 下。 一。 似。 上。

正寶四年三月十四日

歌其云  
 上其云



園田十右七  
川小流左馬  
之利又右又  
右之左八右  
中村助左馬  
園田左太右  
中村左馬  
大板  
中村左馬  
彌利村水兩所  
十 村中

少くとも長と以て市物所估振子と云ふは中物と云ふもろく之と云ふもの  
以て中物と云ふは中物と云ふもの

孝長と云ふは下市物所估振子と云ふは中物と云ふもの  
又日市物所估振子と云ふは中物と云ふもの

と云ふは作せし市物所估振子と云ふは中物と云ふもの  
七右馬振子と云ふは中物と云ふもの

延宝四  
六月十八日

清吉宅九村  
長之助

彌利村水兩所

其在所為物成と云ふは中物所估振子と云ふは中物と云ふもの  
所估振子と云ふは中物と云ふもの

孝長八

九月廿四日

信申一馬中判

出川七村水兩所



越中利波解善社之舟出川村所換地水帳

一拾四町三反八拾三歩

田方

分承式千五百式拾九畝三斗四升五合九勺

一畝所八反半拾八歩

田方

分承式千五百式拾九畝三斗四升五合九勺

一畝所五反半拾八歩

田方

分承式千五百式拾九畝三斗四升五合九勺

合式千五百式拾九畝三斗四升五合九勺

計り

式千五百式拾九畝三斗四升五合九勺

田方

計り

式千五百式拾九畝三斗四升五合九勺

田方

右を以て得る三町六拾六歩宛に——

江坂道引控め宛に

享和元年

十月十七日

三井寺右殿

松山小助

神戸信右殿

横江右殿

同

一町四歩

納前山村所領年貢米に付

合式拾六俵

但納

右等納に付実正也此由件

享和元年十二月十七日

右二京  
卯辰  
古左更



嘉永

納前山村年貢米之事

合貳拾六俵

嘉永

右以み

嘉永十三年

極月五日

中

納前山村年貢米之事

嘉永

右清洲より室正之ゆめ

嘉永十二年三月十四日 佛印

納前山村年貢米之事

合貳拾六俵

嘉永

右清洲より室正之ゆめ

嘉永十三年

三月十八日

佛書判

納前山村年貢米之事

合貳拾六俵

嘉永

右清洲より室正之ゆめ

嘉永十三年

三月十二日

中



柳瀬村百姓分よりお定の中

一 免おと後百石より拾五石迄

他京村六斗表へ

一 寄年貢米と後百石内と一とを取ら仕事

一 川内開心斗おるより次戸割并一仕事

大條にお定の所へ

寺長拾年

恒月二。

青山佐江

大塚七右衛門

奥村内五

茶地九右衛門

荒川三右衛門

大塚白

南橋門

恒井勘太郎

川家八右衛門

梅地九右衛門

柳瀬村お高千四百拾九石四斗四升四

一 百八石三斗二升

一 百七石七斗二升五合

一 百九石七斗四合

一 百六拾石九斗九升八合

一 百拾三石七斗四升五合

一 百三拾石九斗二合

一 百拾石九斗九升五合

一 百拾石八斗九斗五合

一 百五拾七石五斗四升

一 百拾七石五斗九合

一 百拾六石八斗四升

路人分

路人分

路人分

南橋助

川地免右衛門

奥村内五

青山佐江

横山大膳

大塚七右衛門

神三右衛門

平野八右衛門

平野八右衛門



一六拾石七斗五升四合  
一八拾石四斗六升八合

係苑丁 高島木工  
耳羽右之衛

孝長拾一年二月廿五日申刻 守之

孝長拾一年分柳瀬村老女の子あり  
折瀬村 老女あり  
右七拾八俵三斗五升六合  
此物又合拾九俵三斗五升八合八夕ハ

以内を俵拾除く

右の如し

孝長拾一年三月廿日 寺別印判

孝長拾一年分年貢米に申  
合拾九俵三斗三升九合  
折瀬村 老女あり

右の如し

孝長拾一年三月一日 勘右判

砥波新所貴給米給銀相極あり  
勘右

一六高の石拾石八斗五升八合七斗

一五高の石拾石七斗五升八合七斗

一四高の石拾石六斗五升八合七斗

一三高の石拾石五斗五升八合七斗

一二高の石拾石四斗五升八合七斗

一四高の石拾石三斗五升八合七斗

一五高の石拾石二斗五升八合七斗

一六高の石拾石一斗五升八合七斗



一 八百石以上千石以下四石五斗

一 千石以上千五百石以下五石

一 千五百石以上二千石以下六石

一 二千石以上二千五百石以下七石

一 二千五百石以上三千石以下八石

一 三千石以上拾貳石

一 宿方浦方より後ハ村島ニ至梅家敷希得用ノ米多ク有テ所切ニ給米  
給金銀お極ル也

一 増上方より後ハ毎月三度家敷増上ノ刻所賣石七斗ニ後ハ自去  
年トシテ年々外増上ノ平抱ニ以後其米中甚ハ極キ外増上儀  
身所賣買給米年々宛増上申

一 新賣扶持お振より後ハ振家ニ寄テ武井宛テ外ハ二斗ニテ武井家

寄テ別ニ三ヶ寺ニ宛割符ニ付

一 辰村より他村宛此方より下ニ寄五斗宛テ清田宛配仕分ハ定而此  
邊の家数何割より五斗一斗ハ他ノ儀分ニ作分ハ田代ハ何割ノ  
儀宛配仕分ハ辰村ハ家数宛配仕分

一 右方より村ノ所賣武井宛三斗宛テ給米武井割半分宛テ一斗申  
一村ニ寄五斗宛テ給米より後ハ所ノ高下寄テ給米極高ニ後給  
米より向後も同様申給米下金ニ付申

一 寺ノ給米割符より後ハ新賣扶持口申ニ付

右向後村ノ所賣扶持口一斗より寄テ所極小ハ給米六斗給米外  
是紙代子ハ何方お給米其外給米ノ月お少も百姓カ有キ  
一ツら宛テお給米此宛ニ記上申候上



正寶四年六月十六日

衡復邪

十  
村

法按拈一

市  
子  
比

19年

於總て死後百姓せうれ者いり共初少又ハ後家并始者といふ  
 不知年すまじく昔のハ此下ハ意に及ぶれどもいふ事細  
 道吟味ハ分耳又ハ初少とせし後久ハ相殘極末二月付地  
 系ハ別書年おこす是迄大宮指川の間ハ通ふ程罷後  
 仕者有少しありて振と名ハ百姓中并流ハ知耳ニ就教  
 一々村々人百姓有し家所賣にも有るトテ振と並家所賣  
 二付ニ就教ハ年おこしりて何村ハ所賣ハ付中云々付  
 是より四月おこす中ハ似と

正室四

十一月十一日

利又大矣

中村助右衛門

中村孫之恊

圖曰左右

後名治石題

青木平右衛門

園田友七

水上喜八郎

大恆 不在合

越中

步持持  
十村  
中

子

一定免男之勞

内

永

金江村古史記

荒居村



一定欠三歩

四三歩

永川

田村孫化組

後二寺村

右村欠切中村の条へは所請五一畝越へ是等外耕化家  
不情心立惣安者有して子と子新の若隠立といへ  
ふと云うなりと

三宝

七月十日

改代奉行下

戸村

子右衛門

宝丸村

比四郎

格と地随分精成仕りる所易と云ふ目と云

今廿日と所札同廿三日未刻にふた波路又ふ其所地十換而  
ッ等と有於立山兩を所新橋と作下得と云ふ利此

夕が所新念初今朝未の社僧社人拾七人安山一系請仕  
同かりこの池へは浅るを枕り付条と云ふ所易に於  
初為是時より

三三

五月廿四日

芦倉村

十三日

戸村

子右衛門

永泉村

子右衛門

下条村

小右衛門

大白石村

三右衛門

乙二

田中村

三右衛門

宝丸村

源富四郎

家右村

源内村



出向東下、七、終、月、佛、部、出、山、事、云、人、共、不、依、男、女、三、在、如、日、世、  
 中、由、い、け、後、佛、部、事、行、公、是、終、中、後、方、い、れ、終、是、追、年、他、毛、能、  
 り、取、組、令、在、云、作、者、出、分、主、い、け、世、体、定、仕、白、姓、其、貝、成、中、い、る、  
 お、中、い、る、奉、公、一、は、名、さ、ハ、早、速、か、せ、中、い、れ、根、一、予、後、い、る、人、毛、云、く、  
 冥、此、子、孫、い、れ、終、い、る、名、さ、十、村、守、部、川、二、海、せ、つ、り、い、  
 一、去、昔、公、主、事、佛、部、方、一、大、分、我、本、得、者、賞、中、い、る、百、姓、共、お、こ、り、  
 祚、い、れ、ある、白、姓、中、一、名、お、く、作、中、ある、佛、停、止、方、い、る、氏、密、  
 と、他、事、本、作、後、其、方、を、不、吟、味、取、い、る、法、改、名、を、予、後、い、る、  
 二、論、け、紙、毛、見、い、る、人、と、判、形、い、る、名、を、公、け、す、一、と、名、い、れ、  
 三、月、六、日、  
 水、上、各、八、百、  
 中、村、孫、多、所、  
 園、田、右、太、右、  
 屋、家、治、右、所、

三、月、六、日、

三、月、六、日、

水、上、各、八、百、  
 中、村、孫、多、所、  
 園、田、右、太、右、  
 屋、家、治、右、所、

青、木、平、丸、也、  
 八、條、井、七、之、所、  
 之、利、又、右、又、右、  
 中、村、即、右、也、

藤、原、部、村、水、部、新、川、部、  
 出、拉、持、人、  
 十、村、中、

改、他、毛、一、あ、中、い、る、出、回、年、  
 拾、部、々、村、  
 五、拾、部、々、村、  
 五、拾、部、々、村、  
 同、式、年、  
 是、は、二、五、部、々、書、付、如、こ、い、  
 永、應、元、年、  
 同、式、年、  
 永、應、元、年、  
 永、應、元、年、



右席年行前屋様

一給人米進ハ不残拾り中ハ但セキ米迄ハ下年之末ハ拾り中ハ

一未進云儀ハ後ハ振ミ更テ用振ミ内ニ所見ハ此後ハ但セ改  
ハ給人、此ハ相後ハ

右改他席年行ハ此後見

近年他食積ハ蘇抹者ハ巾着及ハ得丸耕他時分必食お積  
迄中ハ得ハ十村ハ味ハ之儀見仰お積中中ハ得振成  
及天者ハ巾着ハ得ハ此ハ改他セ各官能ハ令味積振  
及ハ羊積ハ振ミ此ハ何ト我セハ巾着ハ改積おハ念を入  
能積おハ改一巾ハ不及中ハ得ハ十村ハ自能ハ此ハ前二五ハ  
及ハ其能ハ他食ハ改ハ積一巾ハ不及振同と此ハ此ハ内ハ改

蘇抹成積おハ及ハ其十村ハ改ハ此ハ其ハ此ハ  
紙面ハ及ハ此ハ改判飛ハ振積ハ之

延宝六  
七月廿日

水上花八郎

中村又太夫

中村助左衛門

中村清左衛門

園田右太衛門

青木平左衛門

八條井七左衛門

後家次右衛門

大板

砥波新村水新川新十村中



覚

一何るも古筆に於

一何るも金物に於

一何るも民謡道に

一何るもやうおに於  
一服指又めぬきかういゝるも

右とある何るも古お重白皮の味書之に中は法教師有る振分り尚  
地師通に成お方分中其振こと如所師取書交師友に振法之  
と作後の月番分守る中解お尋中なるに依後加筋ハ色  
とわ多う上り中と南師解ハ且る色に何れ書有るは其  
と今くとの後ハ不融神に神は振振人方十村方二つ振  
と是も各し中ハ振とる振とある中留法振振人十村子前多振  
中之左と共にお方分中其振こと如所師取書交師友に振法之  
相と成も振分何れ師解とる也

一師收納師就而破換取方とる者十日以前、有るに由利、予とる  
と依後中仕切に後も向後ハ振とるに成るに留法振とる有同と  
可中相解り振とる中其振こと如所師取書交師友に振法之  
とる中師就而破換取方とる者十日以前、有るに由利、予とる  
相ハ和能に法破換取方ハ南八日付分小振一上とる中とる有同と

正室

八月五日

性生村

古次を所

川島村

孫他振

め新と依後とる性中村に次系後分中其振こと如所師取書交師友に振法之  
とる中師就而破換取方とる者十日以前、有るに由利、予とる

八月六日

川島村

孫他



覺

一、氣好掛於

正寶六年八月十日

戸村  
又右

大為甚之  
弘其之

藤波郡之内利久村又字所改理体村に又字とて作れり右と通  
白後此等一とて所自昔奥村同懽盛がとて後りりう地を定て之

正寶六

八月十日

聖其言

大島基

水止  
蟲八  
節

利又左史

中村助吉

中村  
氏

圖四 右方



青木平右衛門

八徳井一七之助

後藤治右衛門

大坂

子北村之命之村を爲し和泉村に在りて是村を命之爲村と爲す此村は之を  
持光村と爲す大坂村に在りて此村は之を爲村と爲す此村は之を爲村と爲す

今之所居申并所方其外寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書

一古キ書其

一古キ書其

一古キ書其

一寺社其

一紙令一紙半紙之わらわ何少也古キ書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書

一古キ書其

一古キ書其

書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書

今之所居申并所方其外寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書

一古キ書其

今之所居申并所方其外寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書

一古キ書其

今之所居申并所方其外寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書

三三六

八月十日

奥村伊豫

横山志磨

初基三命版 大為甚々所居

在村又更振師意として中下長十年に藤原朝也此振師也何  
其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書其外之寺社之相觸書



水増しを以て得る事書上より成り候はれ共、今日御書は是  
より上り村に候へば、御事より成り候へ

正宝六

九月廿二日

泉村  
市右衛門

戸右村又在馬屋  
五九村次子四郎左

右様中へ

一宮九村二宮四郎左家十月十二日之候より、利を金と云ふ大に候へ共、  
御事より成り候へ

十月十四日卯ノ刻

戸右村  
又在馬屋  
松本村  
市右衛門

右より御事改化候より、利を金と云ふ大に候へ共、御事より成り候へ

添状

五九村二宮四郎左十月十二日之候より、利を金と云ふ大に候へ共、御事より成り候へ

一長を御事と云ふ御事、御事より成り候へ

御事より成り候へ

分次、四郎左、御事より成り候へ

御事より成り候へ

御事より成り候へ

正宝六

十月十四日

戸右村  
又在馬屋

市右衛門

増田半助様



次命四郎家續矢長之助女某由中一方惣家答云四郎長系  
 心底を案ふ乳父金分本江村長吉郎此但二命四郎交配之故  
 故に之を助方一丁越え通をいふ左馬加りいふ金分也、諸中一話  
 子不才一併貸米取立故是子に此等情をいふ中にも左馬年寄  
 左邊より近所之役者、身中を中よりいふ

延宝六

十二月十六日

水止五八郎  
 毛利又左太  
 中村助太郎  
 中村源吉郎  
 園田右太郎  
 青木平右郎  
 松原井七郎  
 後藤治右郎

大坂

三九村  
 二命四郎  
 戸村  
 又左馬

以日寄様より来候より近江村に寄る百姓の家族より申候に  
 百姓よりいふ細少人又ハ年寄より成者より子前ハ多し  
 此の方から自害隆と云や故に抱り振るに情自然零れ内より中  
 者より振るるや評一付に振る故に形事よりいふ細中  
 紙面尺前波判紙に振銭久し

年

十二月十二日

改修年所

三國

十村出振替人中



近年百姓と我客と合年貢年と持延官出拂に在りしに  
子立者なるありし者も振に接者として我客といふ我客と成り  
系族支那と我客中よりなるものありし者も振に接者として我客と成り  
改行か必し味うて

正宝七

二月廿二日

御祭用場

新勘三郎左  
大増甚る所也

所前  
所前音千と外任所といふ者も振に接者として我客と成り  
改行か必し味うて

正宝七

二月四日

御祭用場

新勘三郎左

大増甚る所也

心懐中品

一西保新金屋村所賣振持米并鑄所仕職場屋及び改行か必し味うて  
自中より改行か必し味うて  
而後控人改行か必し味うて  
米及び改行か必し味うて  
振持米中仕職場屋及び改行か必し味うて  
かハ所定に改行か必し味うて  
改行か必し味うて  
一石職場屋及び改行か必し味うて  
改行か必し味うて  
一村中一統に改行か必し味うて



右の角一を為  
作は農手致しめ新法請上中  
管本右之泉少も遠  
肖竹し和いヶ振て越えこて  
保集おを御更上中  
似上

西原新金龜村  
庄在河

師  
政  
記

陽春竹韻

右之通御書付上中々有奥書仕レケヤ人ハ

東隱村

次富春海

中上依

一、西條新金屋村所賣拔持米并鑄師作鐵場屋及所賣之米  
 主人に下りて外所賣拔持米五斗と右縣中に付所買之米付  
 上中知こもお守石上鐵場屋及後ハ材料お立中拾人より九  
 と下りて而後拾人割新や神仕所賣拔持米は後ハ認ふ去年  
 正右鐵場屋及右有為寺人ヤ許世に付拔持米去年分込ハ主用  
 仕高年分御取定と海米八斗宛村中分せし均といへば後ハ親者  
 系年分ぬれぬ新御更上中知との

正室七年二月廿八日

西溪新舍記

半物

長  
各  
所

三石

孫右海

次命他

十  
物

師政

歸善尺牘



右之通所請書付上中ノ旨、國書仕上ルル候上

東條村

次郎守衛

所分國中在ニ百姓分ハ向端一ノ子居ニ奉云ノ下ニ自分トシテ他國他領  
ニ在哉及為認トハ所定ニハ其ノヤ科ト族名及志ヲウ仕立  
テ他國ニ不系根ニ有支配ハ及又是認他國ニ系為ウ有  
キ人ト一此認者、忽リ悟込振ニ其ノ所屬實ニ何付重ハ向後  
毎年ニ之考局カハ上

延宝七

三月廿九日

玉井勘解由  
北平玄番  
兼池十六郎

所其三郎後 大為其之儀後

實人

一金寺寺切切

一日 弘切

一日 弘切

一日 弘切

一日 弘切

一日 弘切

一日 弘切

戸部村又ハ

玄光村 長之儀

田中村 津左衛

金屋本江村 金右衛

大原村 振之助

川崎村 孫六

世々村 半左衛

右三月廿六日江戸所下向ニ別今右動ハ高岡ニ召所為付成



佛地子也此有... 延宝七年三月

大為其甚... 延宝七年三月

戸々村 又ハ  
之九村 長谷  
田中村 山崎  
金谷村 金谷  
大塚村 振興  
川崎村 孫六  
桂生村 半島

近年諸色何處も増不中... 延宝七年三月

後り通... 延宝七年三月

延宝七年三月八日

伊集田勘平

三國教お成裁評人宛

川西... 延宝七年三月







四  
b  
 $\frac{+}{b}$   
十  
b  
廿  
四  
b



同治

七月十日

月  
集  
月  
惜

張其之印

大禹其系

佛子

一高田澤元而納半納中列代友余而元系中列代諸半而元  
 納之口、即存心、故、此代官、正、存心、中、以、要納、事、之  
 方、事、其、中、以、納、半、納、切、而、法、年、以、事、者、所、用、源、之、其、以、均、八、法  
 代官、之、在、寄、係、較、而、改、交、其、上、為、即、元、口、以、法、事、以、存、心、以、存  
 之、成、代、官、也、下、存、心、中、以、法、事、者、不、之、其、以、內、八、代、友、正  
 元、口、以、存、心、中、以、法、事、者、不、之、其、以、內、八、代、友、正

正寶八年十月廿日

子村  
子古

清  
集  
用  
其

当地新町に下所と有る新市場預し松桐造  
所融新

親と通は作を  
 糸市日一ヶ月  
 二日お宛に書  
 付はるるを  
 二に相教といふ  
 様

延寶八年十一月六日

奧村何弥

前四對馬

本多安房  
政長

金史七古詩一首  
國朝七古詩一首